

出版

十五回生 伊藤(山崎)發子さん  
篤姫と木花開耶姫

榎歌書房刊 福岡市南区皿山4-14-2

電話092(511)8111

FAX 092(511)6641

本号の二人の薩摩おごじょシンデレラ物語詳述の単行本

二九回生 宇尾(上田)史子さん

一九九九年にJ・K・ローリング作 松岡祐子訳の  
ハリー・ポッター第一巻が刊行されてから十年、去月の  
七月二三日、第七巻「ハリー・ポッターと死の秘宝」上・  
下巻が同時に目出度く最終巻として刊行されました。

稀有といってもよい長編児童書ですが、最終頁奥付け  
の宇尾史子さんの名前を見て、下訳はもとより翻訳協力  
に十年の歳月を、縁の下の力持ちとして努めてこられた  
ことに心からの拍手を送り、完訳をお喜び申し上げます。

出展

十四回生 諏佐和子さん パステル画

第二〇回 現代パステル協会展 終了済

東京展 二月七日～十一日 東京芸術劇場 五階

関西展 三月二七日～三十一日 尼崎市総合文化センター

十五回生 渡邊 岬 彫塑

こころ芸術三五周年記念美術展

会場 兵庫県立美術館 原田の森ギャラリー

本館 2階 大展示室

十月一日(水)～五日(日)

出展作はカラーページをご覧ください。

二〇回生 米崎(三輪)ふゆ子さん 水墨画

第四一回 日本水墨画展

三月十四日～二十四日

東京都美術館 終了済

出展作はカラーページをご覧ください

## オノマトペ「ずぶ」と「ばりばり」

七七歳になったとき、妻から「日本語オノマトペ辞典」をもらった。その朝、新聞を見ていたら楽しそうな内容なので私の方から注文したものです。オノマトペはフランス語ですが、日本語の擬音語の擬態語という二つの漢字を合わせたものらしい。例えば、こけこっこうはイデ、すたこらは口ですが、かんかんなどは、鐘の鳴る音イと、怒るさまの両方に使えます。そういうのが思ったより多いのでフランスではオノマトペ一言です。なんと、日本語では四五〇〇語もあるのには驚きでした。

さてここでは「ずぶのアマ」と「ばりばりのプロ」。

二両連結の「趣味の広場」と「会員(家族)の近況」では、好きこそものの上手なれ、ばりばりの方でも最初はずぶから始められたこと。本誌ではずぶとばりばりの境目が無いのが良いところ、黒澤さんのテンペラ画の出版は本誌カラーページがデビューです。小さなアンサンブルやコーラスの発表とか奉仕など、また広く千二〇B・〇Gの方の出版・出演・・・どちらの車輛でも、現物提供・情報提供して「乗車ください!」読者の皆さんも、きつと待っておられますよ。

編集部員 柿崎

## 出演

三一回生 三木(三輪)愛子さん(極威子) 大鼓

今年も、八月二四日に岡山 金春大鼓会に出演されました。来年(二〇〇九年)四月七日(火)に宝生能楽堂(水道橋)の東北会(とうほくかい)の定期公演に出演されます。

## 会員家族の方の近況

十三回生 小川(伊達)雅子さん (子息)

小川剛一郎さん(チエロ奏者)

vn 木野雅之氏 pf 北住 淳氏

トリオ・ミンストレル定期演奏会

東京公演 九月二日(日) 十三時三〇分

東京文化会館 小ホール (JR上野駅前)

曲目 ドビュッシー……………ミンストレル

リムスキー・コルサコフ: ピアノトリオ ハ短調

ピアノソナ……………コラール

二二回生 垣見(小林)久子さん 油絵

出展済みの一月から六月までは展覧会名のみ記載。

福扇展・縣展 鎌倉展・第七五回縣展・第二六回都展  
春季展・第六二回女流画家協会展・第九回紫陽展・

第四〇回北斗会展 日仏交流一五〇周年記念展  
十月からの出展は、会名、会期、会場を記載します。

第三四回ima展 東京都美術館 十月十六日〜二十二日

第四四回都展 東京都美術館 十一月二日〜十二日

ソシエテ・ナシヨナル・デ・ボザール2008年展

会場 カルーゼル・ド・ルーヴル (パリ)

十二月十一日〜十四日

黎明会展(韓国) 会場 ギャラリー仁寺洞(ソウル)

十二月十七日〜二十二日

二二回生 尾川原奈美江さん 染色

本号カラーページ掲載のとおり、臙纈(ロウケツ)染めの制作に励んでおられます。六月は上野の美術館で、七月は京橋・関内でのグループ展、十月二日には廣島の福山美術館で上野の作品が招待作品として展示されます。

来年も今年同様のスケジュールを予定されています。

ドヴォルザーク……………ピアノトリオ「ドゥムキ」

大阪公演 十月二六日(日) 十三時三〇分(曲目同)

兵庫県立芸術文化センター小ホール(西宮北口)

今年も、札幌・福岡と右記との四箇所で行島縦断定期演奏会をつづけておられます。

二〇回生 米崎ふゆ子さん (子息)

米崎栄和さん(指揮者)

米崎さんは、四月にスロヴァキアでの海外初公演後帰国され、六月三日に大阪センチュリー管弦楽団、三〇日に仙台フィルハーモニー交響楽団、七月十八・十九日は、同楽団による仙台小・中学生対象コンサートの指揮をこなされました。下期の演奏予定は、

十一月四・五日 群馬交響楽団、

十二月四日 仙台フィルハーモニー交響楽団、

〃 七日 所沢フィルハーモニー管弦楽団

仙台国際音楽コンクールは有数の音楽祭、そのオケを務める仙台フィルは屈指の国内オケとして存在感は高い。群響は戦後最初に創立された地方オケ(ここに泉あり)の映画になった。所沢では第九を振られる。

# 訃報

歿年月日のないお方は、ご遺族と連絡がとれないため記載できませんでした。

前号十号でお知らせしました以降に、次の三名の方々が、ご逝去なされました。  
謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

十三回生 長谷(大倉)道子様 08・1・11歿

会名が千里山会になる前身の千里第二小学校東京同窓会の九六・九七年には、同窓会が東京にできたことをとても喜ばれご出席されておられました。  
翌年に千里山会となった頃から体調を崩され、その後はご静養の日々となりました。

十八回生 小松(日向)暢子様 08・7・17歿

ご実家の母上のご介護で東京・大阪を長年往復されておられましたので、長い間総会出席はご無理でした。  
四年前の〇四年に初めて総会に出席され、〇五年にはお稲荷さんの下にあった千里山幼稚園の同窓会(会誌

八号)に出席、座談会でも戦争中から戦後に飼っておられた山羊のお話や、またお若かったご両親のお話に花が咲きました。また会誌九号にもご寄稿され、幼い頃父上に連れて行ってもらった山田村ゴルフ場の倶楽部ハウスの西洋の雰囲気にときめきを覚えたことや、当時の千里山の情景など残しておられます。  
その後〇六年・〇七年と毎年総会にご出席なされ、近年老壮生活を楽しみ始められた矢先の急逝でした。

二九回生 園田(中野)啓子様

東京同窓会から千里山会創設の九六年から〇一年までの六年間、学年幹事として本会にご協力いただきました。一時三重県移転のお話で中断し、〇六年に久し振りにご出席になりました。

会誌二号に、育った花壇町(円山町)と、垂水神社の由来や、鉄筋三階建ての新校舎ができた頃の生徒達の活き活きとした情景など当時から偲ばれます。

また生き甲斐をもっておられた助産婦としての仕事と未来についても彼女らしい筆調で語っておられます。

## 寄付御礼

本会運営へのご協力を賜り、ご厚志に心から厚く御礼申し上げます。  
(2007. 4. 1~2008. 3. 31)  
ご到着順

07.09.20	23回生	佐怒賀 弘子様	10,000円	
07.09.21	31回生	木島 能彦様	10,000円	
07.09.25	18回生	寺澤 美代子様	5,000円	
07.09.26	18回生	原田 一郎様	8,000円	
07.10.02		藤田 恵津子様	10,000円	
07.10.15	14回生	諏佐 和子様	10,000円	
07.11.02	14回生	綿貫 恵美子様	4,800円	切手
07.11.09	14回生	木村 豊子様	5,000円	
07.11.10	24回生	奥田 洋子様	3,000円	
07.11.10	22, 24, 26回生有志	二次会残金	850円	
07.11.19		鈴木 孝子様	1,200円	切手
08.02.29	20回生	米崎 ふゆ子様	10,000円	
08.03.04	23回生	平川 種穂様	5,000円	

藤田恵津子様 (旧姓菱川様)、鈴木孝子様  
会誌贈呈への感謝返礼として。